

平成19年11月

庄司孝子 学位論文審査要旨

主 査 神 崎 晋
副主査 井 藤 久 雄
同 寺 川 直 樹

主論文

Involvement of p38 MAP kinase in lipopolysaccharide-induced production of pro- and anti-inflammatory cytokines and prostaglandin E₂ in human choriodecidua

(ヒト絨毛脱落膜におけるLPS誘導性の炎症性および抗炎症性サイトカインとPGE₂産生に関わるp38 MAP kinaseの役割)

(著者：庄司孝子、吉田壮一、光成匡博、三宅法子、月原悟、岩部富夫、原田省、寺川直樹)

平成19年10月 Journal of Reproductive Immunology 75巻 82頁～90頁

審 査 結 果 の 要 旨

CAMにおけるサイトカインとPG産生に関わるMAP kinaseの役割を検討した論文である。CAMのin vitroモデルにおいて、LPSの添加は炎症性サイトカインTNF α および抗炎症性サイトカインIL-10の産生とCOX-2発現を誘導したが、MAP kinase経路のうちp38 MAP kinase阻害剤のみがこれらサイトカインとPG産生を有意に抑制した。p38 MAP kinase阻害剤のサイトカイン抑制作用はTNF α において大きかったことから、炎症により惹起される子宮収縮に対して有効である可能性が示唆された。

本研究は新知見に富むものであり、その結果は周産期医学研究に貢献するとともに学術の水準を高めたものと認める。